

■大黒屋光太夫 船頭。遭難し、ロシア女帝謁見など希有の体験、帰還後、閉居になるも、鎖国下の国際認識に貢献。
だいこくやこうだゆう
徳川吉宗没・1751＝ 伊勢国亀山藩領南若松村(三重県鈴鹿市)で、船宿と船頭を兼ねる亀屋四郎治の次男に生まれる。

大岡忠光没・1760＝ 9歳：

・・・・・・1769＝18歳：

田沼意次老中1772＝21歳： 長じて、江戸小網町の商家に奉公し、
この間、さまざまな教養を身につけたと思われる。

ツツ船蝦夷来 1778＝27歳：別家の亀屋四郎兵衛の養子となり、

蘭学階梯・・1783＝30歳： 白子廻船の船頭職を世襲する大黒屋光太夫を継ぎ、廻船神昌丸に木綿・紀州藩の蔵米などを積んで白子と江戸を往復し、江戸で芝居見物を楽しむなどするうち、
天明大飢饉始1782＝31歳： この年も江戸に向かう途中、遭難し、17人の一行ともども海上を漂い、
蘭学階梯・・1783＝32歳： *1人死去しただけで、8ヵ月後アレウト(アリューシャン)列島のアムチトカ島に漂着する。
_往来の稀な極寒の地でそのまま過ごすうち、7人の仲間を失うが、

田沼意次失脚1786＝35歳：
寛政改革始・1787＝36歳： _ロシアの毛皮商の手代に連れられ、カムチャツカに渡り、初めて肉食、3人が死去するなどするうち、
・・・・・・1788＝37歳： _フランスの探検家レセップス(スエズ運河開削者のおじ)とも交流、オホーツク・ヤクーツクを経て、
初の横綱・・1789＝38歳： _イルクーツク着。ペテルブルグ学士院会員のガラス工業家キリル＝ラクスマンの知遇を得て庇護され、
混浴禁止・・1791＝40歳： *一行の帰国の意志を実現させようと、ペテルブルグに連れられて女帝エカチェリナ2世に謁見、ロシア政財界の有力者や学者・教育者たちと交流し、政治・経済・社会・文化の諸施設を視察。帰国を許され、
ラクスマン来日・1792＝41歳： _生き残った2人と、キリルの子で遣日修交使節のアダム＝ラクスマンの船で根室に帰着。
松平定信引退1793＝42歳： *鎖国理由に止められた後、長崎入港許可証を与えられ、使節が帰ってのちに江戸に送られて、将軍家斉・松平定信らに見聞を伝え、その談話をもとに桂川甫周が「北槎異聞」「漂民御覧之記」「北槎聞略」まとめるも、以後、国禁に触れるとして江戸番町の薬園に閉居状態とさせられ、
オランダ正月・1794＝43歳： _大槻玄沢らが江戸の芝蘭堂で初めてオランダ正月を祝った際に招かれるなど、
ポルト来航・1796＝45歳： _薬園の仕事しながら、幕府の監視のもとで、その知識を直接有志の人々に伝達する役割を担い、前記甫周の写本を通じて、鎖国下での国際認識の発展に大きく貢献することになる。

一九膝栗毛始1802＝51歳：一度だけ帰郷許され、親類縁者と会う。妻は夫が亡くなったと思って再婚していた。

青洲麻醉手術1805＝54歳：

黒住教・・1814＝63歳：

水野忠成老中1818＝67歳：

シボク来日・1823＝72歳：

シボク事件・1828＝77歳：_没した。